

アルミで铸ぐるみ

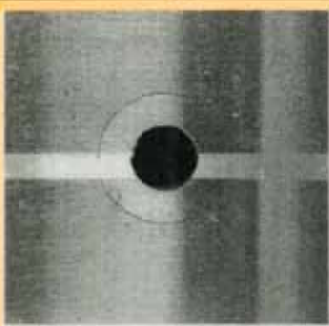
サトキン 融解防ぐ技術開発

【前橋】サトキン(群馬県高崎市、大塚康幸社長、027・320・3655)はアルミニウム鑄造で、アルミパイプを鑄物の中に入れて溶着する、铸ぐるみ技術を開発した。鑄造時に同じ融点のパイプが融解するという課題を、溶湯の温度や流入口の位置を調整するなどすることで解決した。パイプを多用する油圧系制御装置などを対象に、リサイクル性や軽量化などを訴求して受注獲得を狙う。

顧客の要望で、アルミ製はステンレス製パイプの代わりにアルミパイプの活用や、穴あけ加工を施した部品を組み付けるなどして対応していた。今回開発した铸ぐるみ技術により、同じ素材の使用によるリサイクル性の向上や、軽量化で高剛性の

ニプロン、工場集約 電源装置など尼崎に

【神戸】ニプロン(兵庫県尼崎市、酒井節雄社長、06・6487・4141)は、松阪工場(三重県明和町)の電源装置・同関連部品の生産を阪神夢工場(尼崎市)に集約化した。生産の効率化が狙いで、設備や約



中央にアルミパイプが鑄込まれている。ニプロン製パイプの活用や、穴あけ加工を施した部品を組み付けるなどして対応していた。

首都圏に物流拠点開設

住電日立ケーブル 電線在庫を集約

住電日立ケーブル(東京都台東区、戎倉正男社長、03・5827・1011)は、電線問屋の光電舎(大阪市中央区)、昭和電気(同北区)と共同で、首都圏南部に共同物流拠点を開設する。建設市場向けの汎用電線は問屋の在庫とし、特殊なサイズのエレクトロニクスの在庫とす。配送量に合わせて共同定期配送も実施し、稼働効率の向上と物流コストの低減を目指す。

大型物流施設のプロロジスパーク座間(神奈川県座間市)に、共同倉庫「南関東流通センター」を設置。10月1日に営業を始める予定だ。これに合わせて、住電日立ケーブルが持つ川崎物流センターもつなげる。

国内電線需要の落ち込みが続く中、物流拠点の一体運営により事業の効率化を推進する。倉庫内には順次、電気駆動式フォークリフトを導入。二酸化炭素排出量の低減にもつなげる。

一番良い形

「前回の国際大会ではメダルを逃したので、今回は最高の結果になった。この喜びを表現するのは「メカトロニクス」で金メダリストになった長野恭兵選手(日産自動車)。パートナーの浜田和洋選手(同)も

技能五輪カルガリー大会

貴重な経験 次世代に

「学んできたことをすべて出し切り、金を獲得できた」と笑顔で話す。メカトロニクスの代表選手。選考には明確な方針があった。昨秋の全国大会で「世界に通用するメカトロニクスを育てる」と基盤を

設け、両選手を選定。日本チームは国際大会で他のチームが苦戦する中、難度高い課題を次々とクリアした。金メダルだけでなく、訓練を積んだ(野瀬選手)。連日、断トツの作業速度で早々と課題をクリア

した。野瀬選手は「納得できなかったが、多くの人が協力してくれたおかげで取れた」と謙虚に振り返る。

「日本の塗装が世界に通用することを証明できたい」と、野瀬選手は「印刷」で金に輝いたの

選手の声で振り返る

「印刷」で金に輝いたの

「印刷」で金に輝いたの

の流入の位置をパイプから離すなどして実用化に近づけた。蓄積した技術・ノウハウは他にも応用可能と見ており、展示商談会などでVA(価値分析)の度を手がける予定。

山梨県溶接技術競技大会

今年度の入賞者表彰

【諏訪】山梨県鉄橋溶接協会(甲府市、飯田章雄会長、055・241・2674)は山梨県昭和町のアビオ甲府で、09年度の山梨県溶接技術競技大会の表彰式を開いた。最優秀の「山梨県知事賞」は被覆アーク溶接の部が棚秀和さん(飯田鉄工)、炭酸ガスアーク半自動溶接の部が宮田諭さん(同)。日刊工業新聞社社長賞は清水大輝さん(東京洗染機械製作所)と久保田聡さん(飯田鉄工)が受賞した。



聞かせて工場長

全社をあげて技能伝承

工場長となって25年。世話になった先代が17年前に亡くなり、若い2代目の高田直由社長を支えようと頑張ってきた。工場は私に任せて、社長は外部で経営のことを多く学んでほしいと思ったからだ。

工場は2輪車や4輪車のギア、エンジン部品などの金属熱処理加工が主力。社員やパートの資力、修正職人など24人が働いている。創業当初は、何でも請け負う総合熱処理業だったが、今は得意分野

責任感・挑戦する楽しさ伝える

中遠 取締役

東京・大田のモノづくり学ぶ



タイの視察団22人

【訪問】タイの政府機関幹部ら視察団22人が南武(東京都大田区、野村和史社長、03・3742・7377)を訪れた。日本生産性本部の招きで来日しているタイの政府機関幹部ら視察団22人が南武(東京都大田区、野村和史社長、03・3742・7377)を訪れた。日本生産性本部は国際協力活動の一環として、アジア各国の政府機関、生産性関連機関からの視察団を受け入れてきた。3回目となった今回は「日本企業の経営戦略・生産性向上活動から学ぶ」と題して、訪問した(写真)。視察団は金型用油圧シリンダーで高いシェアを誇る同社の製造現場を見学し、作業をカメラで撮影。意見交換も行った。

野村社長は「中小企業が生きていくためには特許を取らないといけない」とオンリーワン製品を持つ重要性を話した。また視察団からはSや、不況下における社員の待遇などについて質問が飛んできた。

南武を訪問

は、菊池憲明選手(トップ)は職場に戻った時に生かしたいと前を向き話している。ダクツ)。4月から毎日8時間以上の訓練を重ねた菊池選手は「競技では理想通りの仕事が出来た」と、仕事師としての顔をのぞかせた。他の選手は難度の高い課題に苦戦したが「いろいろなパターンで練習していたので、気にならなかった」。中には故障しなかった選手もいて、実力以外の要因が影響した。藤森選手は日本の9連覇を逃した責任を痛感しながらも「この経験を後輩に伝えたい」と話した。

日本の選手は多岐、真摯な姿勢で取り組んでいる。「製造チームチャレンジャー」は前々回の大会で銅、銀と続いていたが、今回はメダルを逃した。出場した一人の早川昌秀選手(デンソー)は「訓練時に気になっていた部分、競技の際に問題として表面化した。この経験



大会を終え帰国し安堵の表情を見せる選手ら

「前を振り返る」



NEWS